

2015年8月13日 全8頁

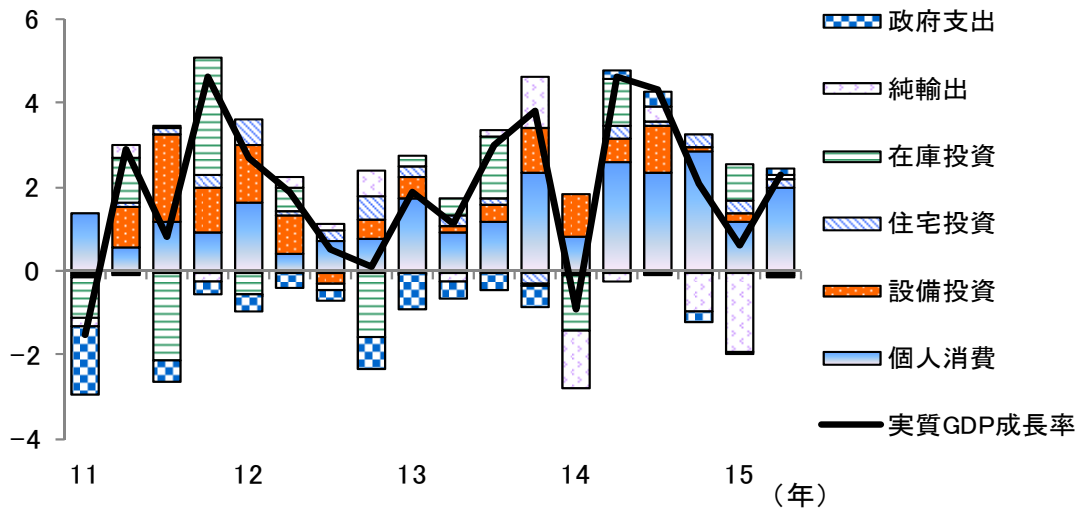
アメリカ経済グラフポケット (2015年8月号)

2015年8月11日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



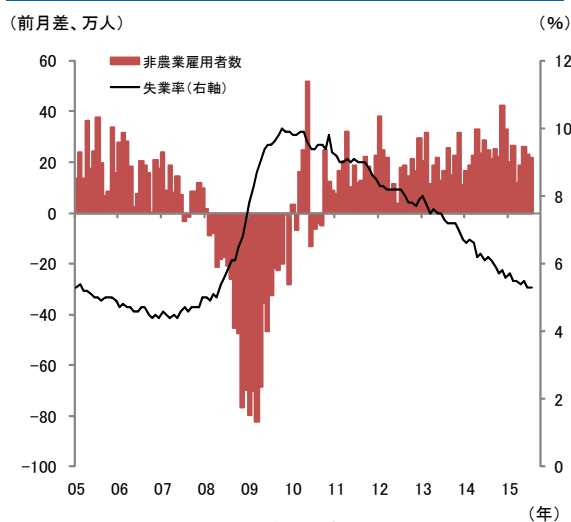
(前期比年率、%、%pt)	2013		2014				2015	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	3.0	3.8	-0.9	4.6	4.3	2.1	0.6	2.3
個人消費	1.7	3.5	1.3	3.8	3.5	4.3	1.8	2.9
設備投資	3.5	8.7	8.3	4.4	9.0	0.7	1.6	-0.6
住宅投資	4.9	-8.1	-2.8	10.4	3.4	10.0	10.1	6.6
政府支出	-2.2	-2.7	0.0	1.2	1.8	-1.4	-0.1	0.8
輸出	4.2	10.9	-6.7	9.8	1.8	5.4	-6.0	5.3
輸入	2.4	1.0	2.8	9.6	-0.8	10.3	7.1	3.5
寄与度								
個人消費	1.2	2.4	0.9	2.6	2.3	2.9	1.2	2.0
設備投資	0.4	1.1	1.0	0.6	1.1	0.1	0.2	-0.1
住宅投資	0.2	-0.3	-0.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.2
在庫投資	1.5	-0.1	-1.3	1.1	0.0	0.0	0.9	-0.1
政府支出	-0.4	-0.5	0.0	0.2	0.3	-0.3	0.0	0.1
輸出	0.6	1.4	-1.0	1.3	0.2	0.7	-0.8	0.7
輸入	-0.4	-0.2	-0.4	-1.5	0.2	-1.6	-1.1	-0.5

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

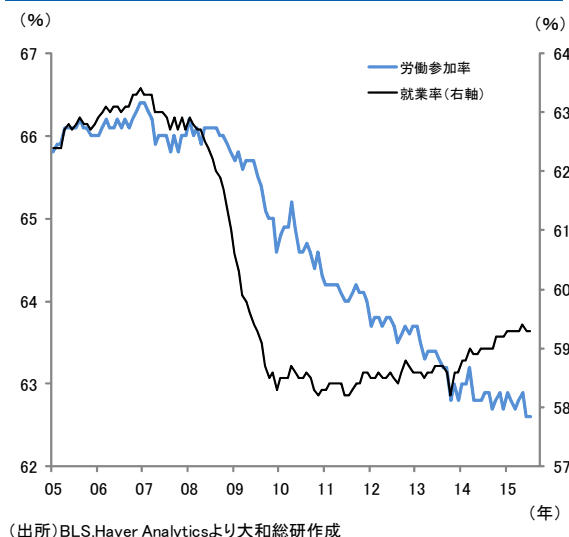
雇用環境¹

- ◆ 7月の失業率は5.3%と前月と同水準であり、リーマンショック前の2008年4月以来の低水準が続いた。
- ◆ 非農業雇用者数の前月差は21.5万人増であった。2ヵ月連続で増加幅が縮小したものの、3ヵ月連続で20万人台の増加を維持した。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は21.3万人増であった。

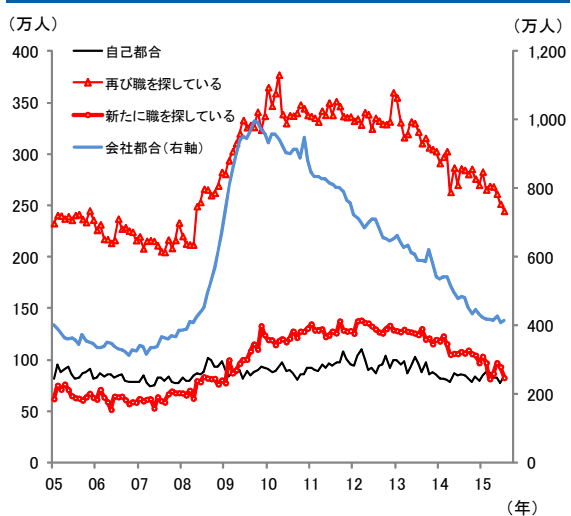
非農業雇用者数と失業率



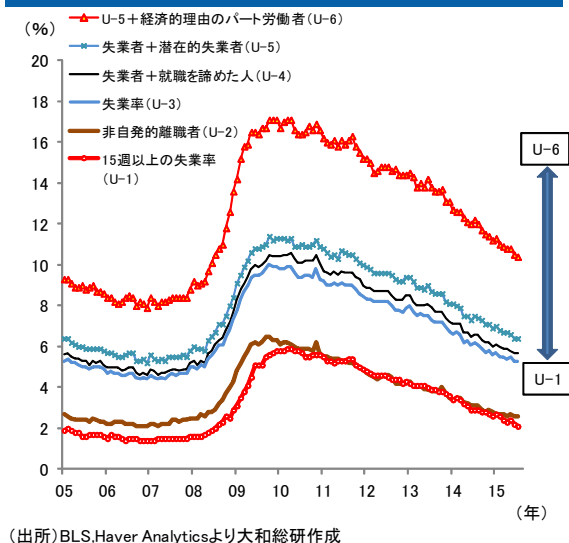
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

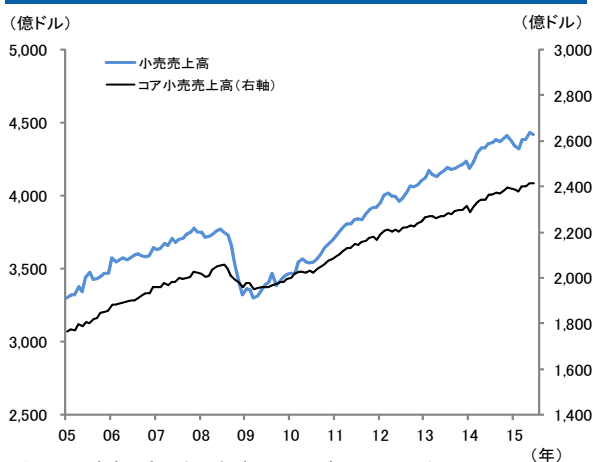


¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「改善は続くが、加速感は見られず」(2015年8月10日) 参照。 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20150810_010003.html

個人消費

- ◆ 6月の小売売上高は前月比0.3%減となり、4ヵ月ぶりに減少した。コア小売売上高も同0.1%減少し、2ヵ月ぶりの減少に転じた。
- ◆ 7月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の96.1から93.1に低下した。期待指数の低下により全体が押し下げられたものの、2014年12月以来90台を超える高い水準を維持している。
- ◆ 7月の自動車販売台数は前月比3.3%増加し、年率換算では1,755万台であった。安価なガソリンや低金利により、SUVやピックアップトラックなどの大型車の販売が好調で、年率1,700万台超の高水準となった。

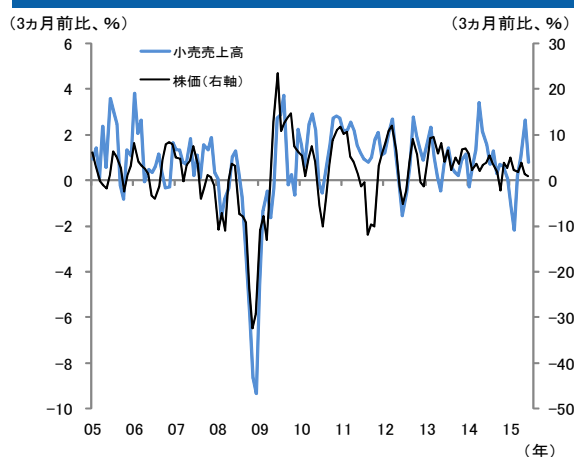
小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、
建材・園芸、飲食サービスを除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

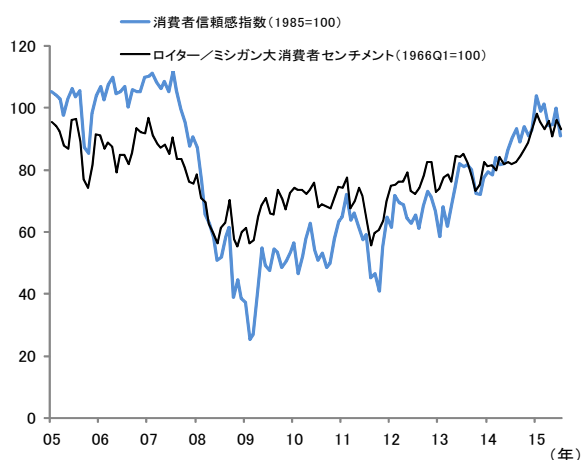
消費と株価



(注)株価はWilshire5000。

(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

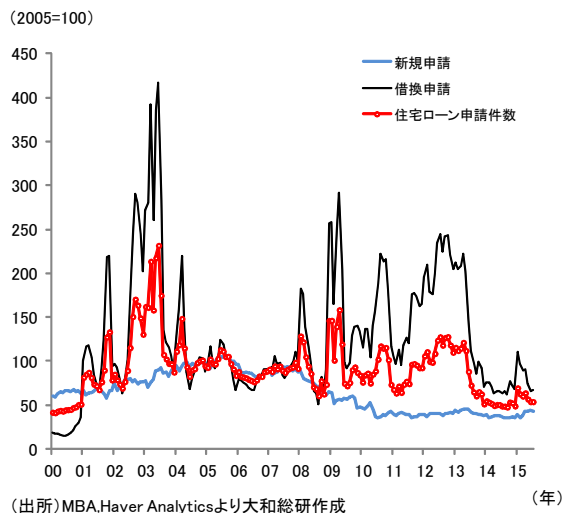
住宅市場

- ◆ 6月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比9.8%増の年率換算117.4万戸であった。振れの大きな集合住宅の増加が全体を押し上げて前月より増加に転じた。
- ◆ 6月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月から2.8%増加し、年率換算で484.0万戸と、2007年2月以来の高水準となった。
- ◆ 6月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比6.8%減の年率換算48.2万戸であった。前月同様に北東部における販売が大幅に増加したものの、西部、南部及び中西部での販売減少が響き、2ヵ月連続の減少となった。
- ◆ 5月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月比0.2%低下した。

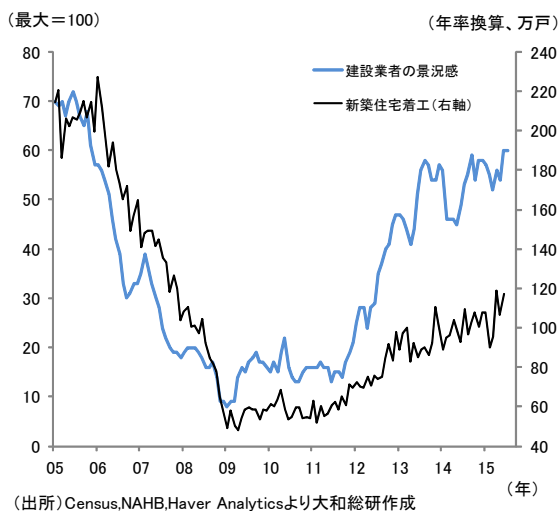
住宅販売（一戸建て）



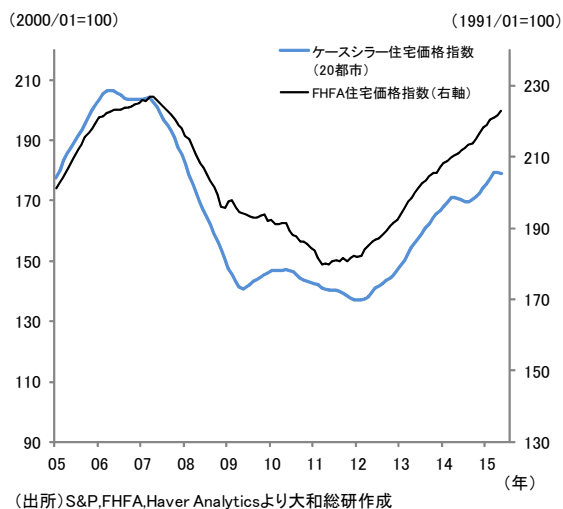
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



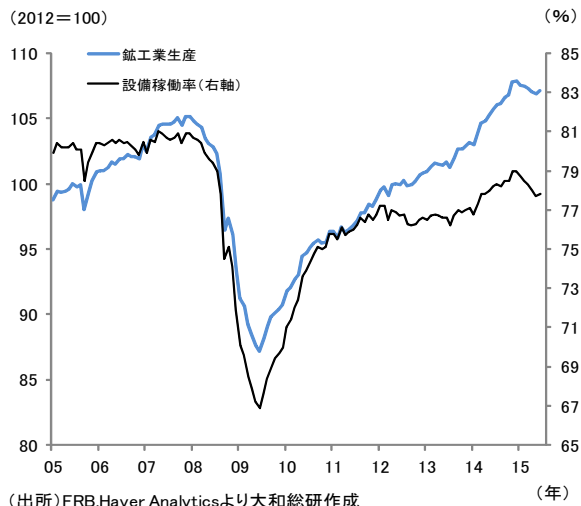
住宅価格



企業動向

- ◆ 6月の鉱工業生産指数は前月比0.2%上昇した。鉱業や電力生産が増加し、2014年12月以来の上昇となった。指数全体の約7割を占める製造業は、主に自動車及び自動車部品の減少により、同0.1%低下した。
- ◆ 6月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は前月比0.7%増となり、3ヵ月ぶりの増加に転じた。
- ◆ 7月のISM製造業指数は、前月差0.8%ポイント低下の52.7%であった。雇用や在庫の落ち込みにより、4ヵ月ぶりに低下した。非製造業指数は、同4.3%ポイントと大幅に上昇し、60.3%となった。雇用や新規受注が大きく伸び、2005年8月以来の高水準を記録した。

鉱工業生産と設備稼働率



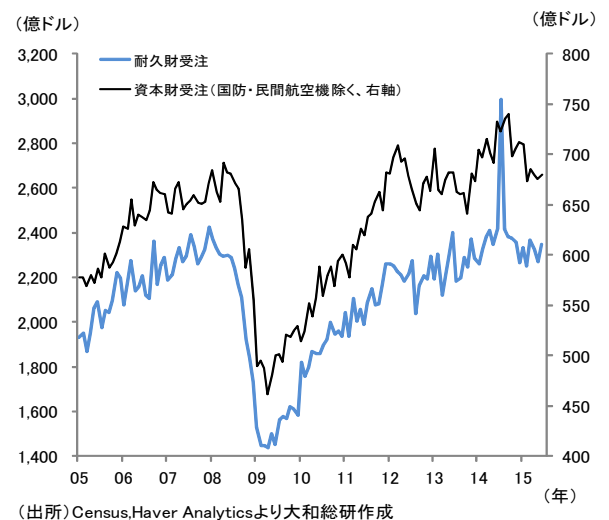
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



耐久財受注



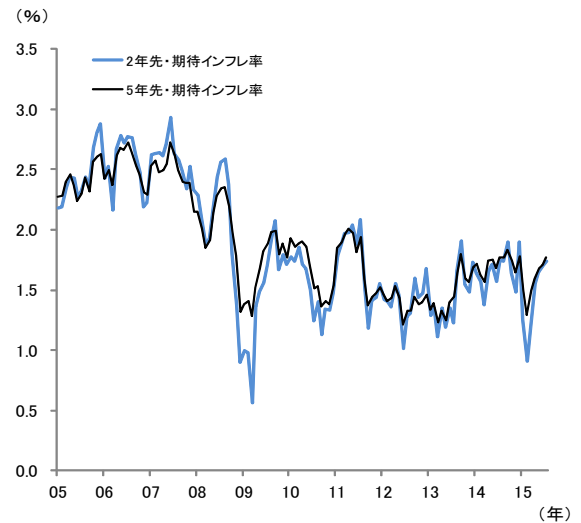
物価動向

- ◆ 6月のCPI（消費者物価指数）は前年比0.1%上昇し、2014年12月以来の上昇となった。コアCPIも同1.8%上昇した。インフレ率はFRBの長期目標である2%を下回る状態が続いている。
- ◆ 7月の2年先期待インフレ率は1.74%、5年先期待インフレ率は1.77%となり、いずれも5ヵ月連続で上昇した。
- ◆ 7月末のWTI原油先物価格は47.12ドル/バレルと、6月末の59.47ドル/バレルから約20%下落した。

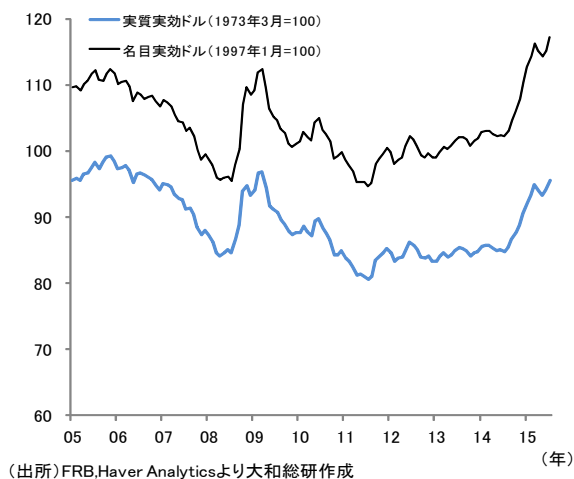
消費者物価指数



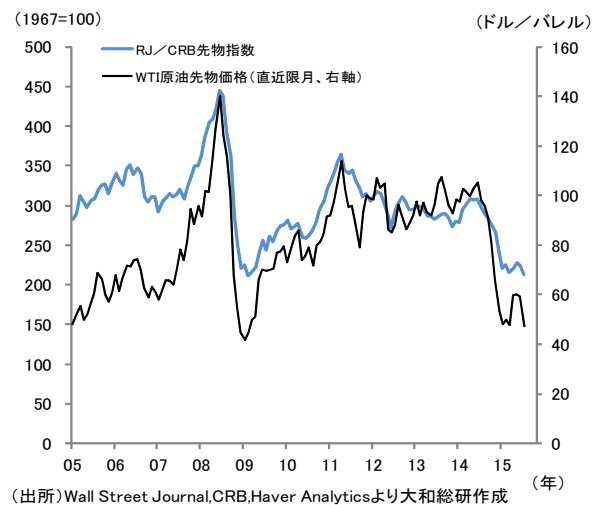
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



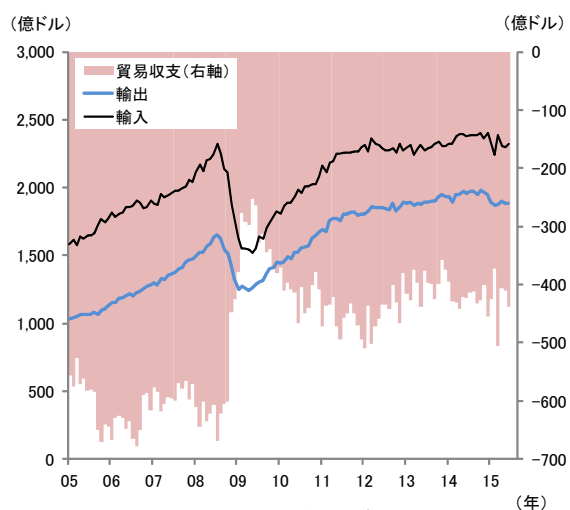
コモディティ価格



輸出入・経常収支

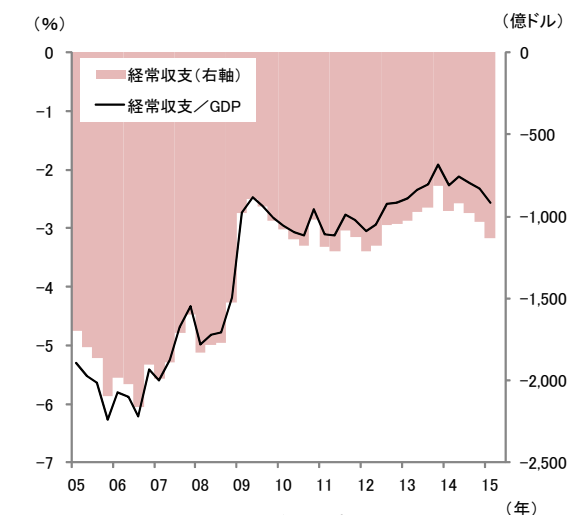
- ◆ 6月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.1%減少し、輸入は同1.2%増加した。輸出は、資本財及び工業製品が減少し、一方の輸入は、消費財が増加した。貿易収支赤字は前月から7.1%拡大し、約438億ドルとなった。
- ◆ 地域別（財）では、中国への輸出が前年比3.8%増加したが、日本向けは同6.9%減、欧州向けも同8.5%減少した。輸入は、欧州からの輸入が同3.8%増、中国からも同4.3%増となったものの、日本からの輸入は同7.0%減となった。

貿易収支動向



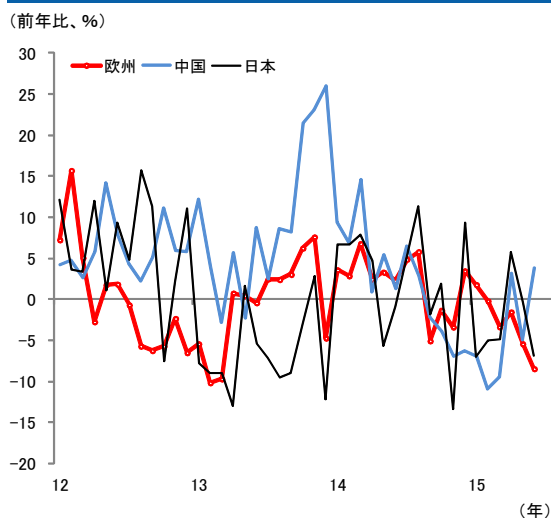
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

経常収支の推移



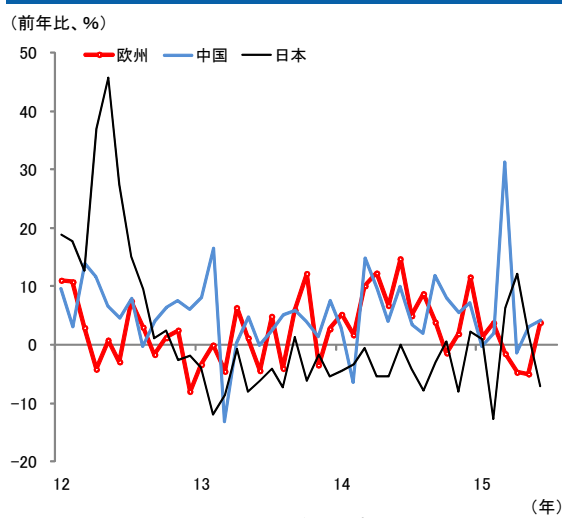
(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸出動向



(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸入動向

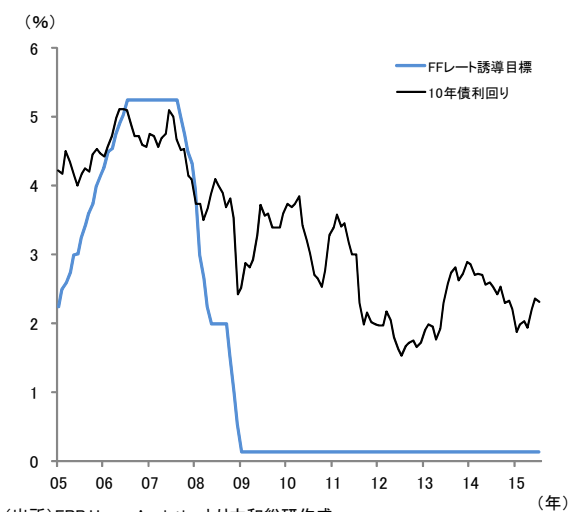


(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

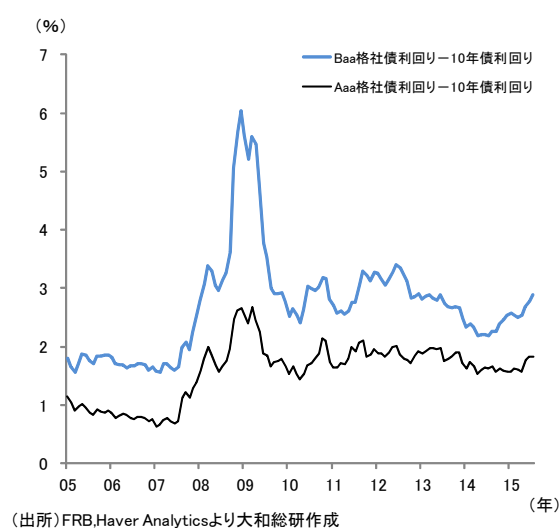
金融・財政

- ◆ 7月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.32%であった。中国の株式市場の混乱などから国債が買われ、前月の平均値より金利が若干低下した。
- ◆ 7月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、事実上のゼロ金利政策の据え置きと、保有する資産規模の維持が決定された。FRBの資産残高は、直近の8月5日の週平均が約4兆5,300億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小している。

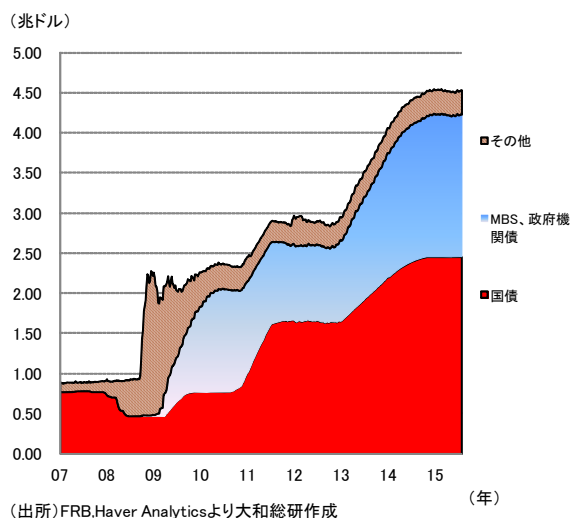
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

